

開会挨拶



国立国会図書館長 長尾真

みなさん、おはようございます。図書館長の長尾でございます。今日はお忙しいところ多数、このレファレンス協同データベース事業のフォーラムにおいでいただきまして、誠にありがとうございます。

この事業も5年経ちまして、参加館が500館を超えたと聞いております。アクセス回数も毎月20万回以上になってきているということで、大変ありがたく思っております。

私どもとしましては、なるべくレファレンスサービスの事例をたくさん集めて、そしてみなさん方に利用していただく、そういう環境を整えることに精力を注ぎこんできたと思ってまいったわけでございます。幸いなことに、5万件近いレファレンスデータベースが出来上がってきておりますし、アクセス回数も非常にふえてきているというのは、大変ありがたいことでございます。

しかし、私が見ますところ、5万件程度のレファレンス事例ではまったく不十分でございます。少なくとも30万件から40万件、50万件くらいの事例のデータベースにしていかなければ、本当の意味で皆さん方に利用していただけるところにはなかなか行かないのではないかと、内部ではもっとしっかり我々自身も頑張らなくてはいけないのではないかとやっているところ

でございます。

毎月20万件アクセスしていただいているようですが、その20万件のアクセスの中で本当にレファレンスの参考になったという事例がいくつあったかというのは、やはりきちんと調べてみななければいけないのではないかと考えています。20万件あっても、いろいろと探したけれど、結局自分の参考になる事例がなかったと諦めてやめてしまうのが、かなり多いのではないかと思います。それですと、アクセス回数が多いからといって喜んでいるわけにはまいりません。そういう意味でも、これからますます事例を増やしていかなければいけないわけでございます。

こういうことに関しましては、国立国会図書館におきましてもデータ入力、レファレンス事例の入力を一生懸命やるように言っておりますが、みなさん方のご協力、積極的なご参加がなければ十分なものになりません。

レファレンス事例をきちんと作ってデータベースにインプットするというのは大変な作業でございます。日々大変お忙しく過ごしておられる図書館のみなさん方に、こういう仕事までプラスアルファ的にやっていただくというのは大変なことかと思っております。しかし、こういうことを全国の図書館のみなさん方の協力でしっかり

やることによって、20万件、30万件と事例が集まれば、非常に強力なデータベースになります。色々な質問に対してもきちんと参考になる資料ができて、適切なレファレンスサービスを利用者の方々に提供できる環境が作れるのではないかと、そうなりますと効率が非常に上がります。事例データを入れるというのは、現時点では大変な労力で、時間的な問題がございますけれども、将来を考えて時間を取っていただければと期待しているところでございます。

今日、図書館の仕事というのは、激変していると思っております。しかし、そういった中でも、やはり仕事の効率を上げていくということが非常に大事であります。その典型的な例としまして、書誌作業につきましては随分前からかなり効率的になされておまして、書誌データをダウンロードして使うというふうにどんどんなってきました。

レファレンスサービスというのは、なかなか今までそうっていなかったわけですね。ですから、何十万件ものレファレンス事例を入れておいて、それをダウンロードしてそれぞれの参考にしていただくという環境を作ることは、特に大事だということになるわけでございます。

そしてまた、今日では年々、8万件くらいの書物が出版されているという状況があります。その中で、どういう本を読むのが本当に適切であるか、どういう調べ方をするのが一番良いかということが、非常に切実な問題になってきているわけでございます。あまりにも多くの出版物があり、どれを見たら良いのかわからないという状況になってきておりますので、そういう意味で、これからの図書館の仕事の一番大事なものは、やはり、レファレンスサービスであると私は思っております。

レファレンスサービスは、図書館司書としま

して、最も自分の力を発揮できる仕事であると思います。そういうところから、レファレンスデータベースを作り、それを見て、自分が適切な判断をしてレファレンスサービスを行っているというふうにしなればいけない、そういう意味で図書館司書の最も大事な仕事はこれである、これからますますそうなると思っていただいております。

このレファレンス協同データベース事業が大変うまくいっているということは、私も国立国会図書館として、大変ありがたいことでございます。公共図書館あるいは大学図書館、専門図書館等々と国立国会図書館が協力をするというテーマは色々ございますが、このレファレンス協同データベースの事業が、最も成果を挙げている事業ではないかと思っております。そういう意味でお互いにこれからも協力しながら、良い事例データベースを作って、良いレファレンスサービスを国民全体に提供することに、お互いに努力していきたいと思っておりますので、どうか是非ともよろしくお願い申し上げます。

少々長くなりましたけれども、開会のご挨拶といたします。どうぞよろしく願いいたします。